

与謝野町のこれからを考える人たちの対談

田舎と私たち



織りなす人の手帖編集部

与謝野町長

与謝野町クリエイティブディレクター

町の中高生 × 山添藤真 × 田子學





山添藤真町長と、2015年5月から与謝野町のクリエイティブディレクターを務める田子學さんを招き、お話を伺いました。おふたりの出会い、与謝野町の魅力、これから目指す町の姿とは？この「織りなす人の手帖編集部」の町に暮らす中学生、高校生（以下、生徒）にも参加してもらいました。

最終的に人を動かすのは人のエネルギーだと思うんです。

まずは自己紹介をお願いします。

山添藤真町長（以下、山添） 山添藤真といいます。2014年の4月に町長に就任しました。私はまちの将来像である「水・緑・空 笑顔がやくふれあいのまち」を実現するために、「みんなの知恵と技術で、新しい価値を生むまちづくり」を進めています。その重要政策は産業振興と教育政策であると考えています。丹後ちりめんに代表される織物や京の豆っこ米などの農業の基盤に、創造性や新規性、革新性を加えたうえでもっと盛り上げていくべく、田子學さんをパートナーとして迎え、ともに努力を重ねています。

田子學さん（以下、田子） 田子學です。肩書きはデザイナーです。みなさん、デザイナーがどういう仕事をしているか想像できますか？絵が得意な人？あのね、絵は得意です。しこたま描いてきました（笑）。でもね、デザインは美術とは違うんです。世の中の仕組み、人の流れ、その土地その土地の特性などをかんがみながら、よりよくするためにどういうカタチにすればよ

いかを考えるのがデザインなんです。「カタチ」といっても、目には見えないカタチですけどね。山添さんと出会い、この与謝野町の未来について語り合い、これからみなさんと一緒になってこの町を世界に対して誇れる町にしていきたいなど努力しているところです。

今回、田子さんに与謝野町のクリエイティブディレクターを依頼した経緯を教えてください。

山添 与謝野町は非常にすばらしい素材を生み出す力のある町ですが、私たち行政と、素材を作っている民間の事業所の方々、そして住民の皆さんという地域だけの知恵や発想力だけでは、事業を強かに推進するのが難しいのではと思いました。そこで私の友人に相談したところ、ぜひ田子さんに会ってみるべきだと言われたんです。それが2014年5月。すぐに田子さんにメールを送り、会っていただけないかとお願いしました。

田子 普段、僕は小さな企業から大きな企業の方、スタートアップと呼ばれる新しく事業を立ち上げ

た方から、大学で教鞭も取っているので大学関連の方までいろんな方と話をします。でも、町長という立場の方から直々に連絡をいただいたのはその時が初めてで、それだけで興味を持ちました。

山添 与謝野町は小さな町だけれど、世界中から様々な感性を持つ人が集まったり、この地域で育つ子どもたちが感性を磨き上げて世界に出て行くような地域にしたいとビジョンを語りました。

田子 彼は「これからこうしていきたい！」という想いを、ものすごい熱量で話されたんです。同じように熱い気持ちを持つ方は少なくないけれど、小さな町が大きく羽ばたきたいというチャレンジというのかな、野望をつきつけられたような気持ちになりました。僕は町政に関わったことはなかったけれど、「これは受けなくちゃ」とその場で握手をしました。最終的に人を動かすのは人のエネルギーだと思うんです。それを感じたからこそ、今ここにいます。

今後、どのように事業を進めていくのか、具体的に教えてください。

山添 与謝野ブランド戦略事業は、3つの柱で構成されています。ひとつ目は「ものづくり産業の強化」、ふたつ目は「プロモーションの強化」、そして「エリア構築」です。ものづくり産業の強化ではものづくりをする力のアップを、プロモーションの強化では、町内外の人々によりよい情報を届けるべく、ものづくり産業の担い手のドキュメンタリー映像「織りなす人」を毎週金曜日に配信しています。エリア構築では、阿蘇ベイエリア周辺に点在している織物工場、古民家、空き家を活用し、産業の魅力を体感できる場所にしていくことを目指しています。その中でも私たちが今年度一生懸命取り組んだ結果、注目を集めつつあるのが、ものづくり産業の強化の一環であるホップの栽培です。ホップ

はビールの原材料のひとつなのですが、今年の4月に栽培を始め、夏に無事収穫することができました。

田子 ホップってアサ科の植物なのですが、毬花がかわいいんですよ。道の駅の近くで栽培しているのですが、来年ぜひ見てみてください。毬花を嗅いでみると、ものすごく甘くて、苦みもある、そう、グレープフルーツのようないい香りがするんです。ホップには鎮静作用があるらしく、お風呂に入れるとリラックスできたりもするみたいです。だから、「ホップ=ビールを作るためのもの」ではないんですよ。みんなが大きくなったときにホップにまつわる仕事を見つけられるかもしれないし、世界に打って出られるかもしれない。いろんな可能性の種となるもの。それを始められたことは、とても大きな一歩だと思っています。

田子さんは、与謝野町を訪れてみてどんな感想を抱きましたか？

田子 初めてこの町を訪れたのが2014年の8月。京都市内に行ったことはあったけれど、京都北部に来たこと自体初めてでした。どんな可能性を持っている町なんだろうと見て回ったときに、天橋立というロケーションを目の前にのぞむ素晴らしい土地柄だなと思いました。織物に関わる匠の姿も素晴らしかった。その後、町の人といろいろ話をしていくうちに、京の豆っこ肥料を作っていることを知って、僕はそれがすごくおもしろいと思ったんです。だって肥料から作る町なんて他に見たことがない。それなのに、それをブランドとして表現できていないのが現状ですよ。素晴らしいものを作ろうという意識はあるけれど、頭とお尻がつながっていないのかな、そこを編集・調整することが僕の役目だと感じました。魅力って当事者はなかなか気づきにくいもの。眠っている魅力を引き上げることが、唯一僕のできるることかなと。

町長はどんなところを魅力だと感じていますか？

山添 山も川も海もあって、その豊かな環境を基盤に人々のいろいろな営みが生まれている。そのことがすでに誇りだと思っているのですが、中でも私がすごいと思うのはこの地域には本当に多くの企業があるということです。みなさんがイメージする企業といえば従業員がたくさんいるような大きな規模のものかもしれないけれど、与謝野町には2~3人、ときにはたった1人で企業を経営している人がいる。自分で事業を興し、家族や仲間と事業を創り、次の世代に継承する。そのためには勉強し、技術を磨き、知恵を身につけ、革新性や新規性を取り入れる必要があります。たくさんの企業があるということは、そういうことを考えている人、実践している人が集まっているということです。そんな町民ひとりひとりが地域の魅力そのものだと思っています。

生徒 田子さんに質問です。以前、東芝に勤めていらっしゃったそうですが、社会のために役立つ商品のデザインを考えることと、町の活性化のためのデザインを考えることの共通点はありますか？

田子 人の喜びに繋がるものを設計するという点は完全に共通しています。それが製品なのか、例えば、道路や建物の在り方といった景観と呼ばれる環境なのかの違いはありますが、どちらにしても人にいいなって喜んだり、楽しんだりしてもらうことを考えるのがデザイナーの仕事です。だから、そこに境は全然ないですよ。

生徒 町長に質問です。僕は来年生徒会長になると思っていますのですが、今、与謝野町のトップに立っておられる町長にとって我慢しないといけないことや、うれしいことなどありますか？参考らせてください。(会場が笑いに包まれる)

町民ひとりひとりが地域の魅力そのもの



山添 君が来年どういう学校作りをされるのか今から楽しみです。君がトップに立つにあたり、我慢をしなければならないことですが、私の場合は、決して職員に対して強制をしないことをポリシーにしています。あれをやれ、これをやれと強制してやらせることは簡単ですが、私はひとりひとりの自発性や内発性を尊重したいので、職員それぞれが目の前にある問題を解決するためにどういうことをしなければならないのか、そこを自分で考えてもらいます。自発性をもってもらうには、ときに長い時間がかかる場合もあるので、そこをいかに我慢できるか。それは、いかにその人を信頼できるかということだと思います。我慢ができる、待つことができるというのは、「この人だったら絶対に何かやってくれる」という信頼をおいてるということだから。君は、学校作りの方針を考え、みんなに伝えて、そのために動いてくれる人たちを信じる勇気を持つことが大切だと思います。町

長としてうれしいことは、今言ったことですね。職員ひとりひとりの自発性のもとに、「これができました」と報告を受けることでしょうか。

田子 ちょっといいですか？僕がこの町にきて一番最初に思ったことは、想像していたよりも海に入っている人がすごく少ないなあということでした。みんなは阿蘇海で遊んだことありますか？

生徒 家の前の海に、エイがきたときは網で獲ろうとしました。

田子 エイがくるんだ。すばらしいね。僕はみんなと海の間をすごく知りたかったんです。与謝野町を含む北部地域では「海の京都」を掲げているのに、海岸線には柵があるし、「危ない、ここから入るな」って看板も立っているでしょう？海に入って遊ぶことはある？

生徒 臭いから入りません。

田子 そういうふうに言われているよね。泳ぐとしたら外海の方かな？もし、内海がものすごくきれいだったら入りたいと思う？

生徒 入りたい！

田子 きっと、みんなにとって阿蘇海は入ったらいけないものという認識なんじゃないかな。「汚いし、臭いし、触れないようにしよう」って。僕、それは違うと思うんです。本当に海を大切にしようと思うのなら海で遊ぼうよ！そして、海のことをもっと知ろう。海を自分の家族や友だちのように思うことで、海がいかに大切かがわかるはず。ここを生まれ故郷として戻ってくる鮭がいるのは知っているよね。みんなでもとの環境に戻してあげなければ、鮭の住処さえなくなってしまう。君たちが住んでいるこの町は、素晴らしい自然に囲まれている。だからこそひとりひとりの力を信じて、自分たちが気付き、大切に繋いでいけるか、ときに変えていけるかということが大事。この町のように小さな町が気付くことで、大きな動きに繋がると思っています。



山添 みんなはこの手帖作りのプロジェクトと一緒に時間を過ごすようになったと聞いています。学年も、学校も違うみんながこうして集まってくれている。世界では地域や国境、そういったものを飛び越えて、いろんな人たちが力をあわせて世界規模の問題に取り組んでいます。この出会いと交流を大切に、共に成長する仲間になってほしいです。

田子 僕はデザインという入口からこの町に携わらせてもらいましたが、これから必要なことは僕たちだけが考えるのではなく、こういった気付きをみんなに理解していただいて、伝播していくことです。年齢は関係なくて、若い人にこそ考えてもらいたい。僕らの世代が考えて動けるのは、あと10年や20年です。でも君たちはまだ若くて、考える時間がいっぱいある。だからこそ君たちにここで起きていること、これからやらなければいけないことを楽しく考えていってもらいたいなど思っています。今流行っている話、他愛のない話の延長上に少しだけでも入れてもらえるとうれしいです。



与謝野町長

山添藤真

Toma Yamazoe

1981年生まれ。江戸時代から続く丹後ちりめん織元の長男として育つ。2000年京都府立宮津高等学校卒業後、フランスに留学。2004年フランス国立建築大学パリ・マラケ校に入学し、都市設計から住宅政策まで、幅広く建築を学ぶ。2008年フランス国立社会科学高等研究院パリ校2年次終了。2010年から2014年まで与謝野町議会議員を経て、2014年4月与謝野町長就任。

与謝野町クリエイティブディレクター

田子學

Manabu Tago

MTDO inc. 代表取締役。アートディレクター／デザイナー。株式会社東芝デザインセンターにて家電、情報機器デザイン開発に携わった後、株式会社リアル・フリースのデザインマネジメント責任者として従事。その後2008年株式会社エムテドを立ち上げる。現在は幅広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでをトータルでデザイン、ディレクション、マネジメントし、社会に向けた新しい価値創造を実践している。